



Ayurveda Society in Japan
The 48th General Conference in TOKYO

第48回 日本アーユルヴェーダ学会 東京研究総会 抄録集

2026 東京研究総会 HP



<https://tokyo2026.asj-conference.com/>

本誌記載のデータは、2026年8月末日提出時点の物です。

主催

一般社団法人
日本アーユルヴェーダ学会

企画運営

日本アーユルヴェーダ学会
東京研究総会実行委員会

第48回
日本アーユルヴェーダ学会
東京研究総会

大会テーマ

社会に息づく
アーユルヴェーダへ
～暮らしの中から広がる共生の智慧～

日程	ワンデーセミナー：2026年10月31日(土) 研究総会：2026年11月1日(日)
会場	大崎ブライトコアホール
主催	一般社団法人 日本アーユルヴェーダ学会
企画運営	日本アーユルヴェーダ学会 東京研究総会実行委員会
大会長	西谷 雅史 響きの杜クリニック 院長
実行委員長	萩原 千景

会場までのアクセス	4
オンライン後日配信のご案内	5
理事長挨拶	6
大会長挨拶	7
インド大使館からの祝辞	8 - 9
プログラム(1day セミナー)	10
プログラム(東京研究総会)	11
ワンデーセミナー	
オープニングセレモニー 息吹之笛演奏者 雲龍氏のご紹介	14 - 15
講演1 三林 寛	16
講演2 香取 薫	17
講演3 中川 真紀子	18
講演4 クリシュナ U.K.	19
講演5 吉野 鉄大	20
東京研究総会	
基調講演 西谷 雅史・中島 佐知子	24 - 25
教育講演 上馬場 和夫	26
招待講演 伊藤 京子	27
トークセッション 及川 史歩	28
一般演題1 亀森 奈緒子	32
一般演題2 村中 みわ	33
一般演題3 高氏 裕貴	34
一般演題4 Dr. Ipsita Panda	35
一般演題5 Dr. Supriya Vivek Singh	36
企業展示社名 & ブース小間・MAP	38 - 39
抄録集広告協賛	40
応援・ご寄付、第48回 日本アーユルヴェーダ学会 東京研究総会 実行委員一覧	41
謝辞	42
来年の総会告知	43
アーユルヴェーダ研究 51年の歩みとこれから	44 - 45

会場

Osaki Bright Core Hall

大崎ブライトコア ホール

アクセス

〒141-0001 東京都品川区北品川5丁目5-15
大崎ブライトコア3F

TEL 03-5447-7130

<https://osaki-hall.jp/access/>

電車でお越しの方

- JR 山手線・JR 埼京線・JR 湘南新宿ライン「大崎」駅より、徒歩 5 分
- りんかい線「大崎」駅より、徒歩 5 分
- ※JR 山手線 渋谷方面よりお越しの方は、進行方向『前側』の車両、
- ※JR 山手線 東京方面よりお越しの方は、進行方向『後側』の車両がおすすめ
- 「南口改札」を出て左、「新東口」方面に直進、以降、道なりです。
- 駅コンコースからエスカレーターで地上に降り、目黒川を渡って1ブロックです。

車でお越しの方

- 山手通り「大崎駅前交番前」の交差点を曲がり、約 250m 左手のビルとなります。
- ・地下 1 階に小さいサイズの機械式駐車場があります
(30 分 250 円／上限 1,800 円／車高 1.5m まで)
- ・駐車割引等のサービスはございません。



Map

1dayセミナー・東京研究総会講演の
オンライン後日配信を行います

1day セミナー・東京研究総会にご参加いただいた方は、無料でご視聴いただけます。

有料配信は 2 日間講演分で 23,000 円（税込）となります

ご視聴ご希望の方は、下記までお申し込みください▼

オンラインのみの配信をお知り合いにご紹介頂ける場合は、
下記 QR コードから、後日配信チケットをご購入ください。

お申し込み・ご視聴方法

YouTube上にて後日、今学術大会の講演を有料配信いたします。
動画が視聴できるデバイス(スマホ・PC等)と、ネット環境をご用意下さい。

Step 1

下記URL(QRコード)より、
オンライン配信の限定URL取得のお申し込みをお願い致しますhttps://eventpay.jp/event_info?shop_code=6144226960303481&EventCode=P951148782

Step 2

お申し込み後の流れ

支払い確認後、お申し込み時に記載いただいたメールアドレス宛に
YouTube動画のクローズド視聴用URLをお知らせいたします。
(URLをご存知の方のみが視聴できる視聴方法です)

届いたURLをクリックいただき、動画をご視聴ください。





一般社団法人 日本アールヴェーダ学会 理事長

北西 剛 *Tsuyoshi Kitanishi*

きたにし耳鼻咽喉科 院長

第48回 日本アールヴェーダ学会 東京研究総会開催にあたって

今年は2年ぶりに現地会場（後日オンデマンド配信あり）での開催となりました。私の周辺でも、年を追うごとに、アールヴェーダを身近に感じる機会が増えてきているように思います。診察に来られる患者様をはじめ、ご一緒する方々から、アールヴェーダに興味を持ち、学びたい、取り入れたいという声を多くいただいています。また、西洋医学の学会からも、アールヴェーダに関する講演・ワークショップ開催依頼も増えています。

昨今の実情をふまえて、今年の大会テーマは『**社会に息づくアールヴェーダへ ～暮らしの中から広がる共生の智慧**』となっています。今回大会長を担当していただいた 響きの杜クリニック 西谷雅史院長は、かねてよりアールヴェーダを含む幅広い医療を提案、実践されておられ、実績を積みまれています。今回は、まさに社会実装を主とする学会プログラムを構成していただくことになりました。

10月31日1dayセミナーでは、世界的笛奏者 雲龍さんによる演奏でのオープニングを予定しています。息吹之笛の音はまさにガイアシンフォニー。五大元素、宇宙とのつながりを感じさせていただけます。また各講師の先生方から、教育、食・農、ヘルスツーリズム、伝統・統合医療といったテーマをお話しいただく予定です。アールヴェーダとの関わり、職種を越えて、どなたにも興味を持っていただける講演になると思います。

11月1日研究総会では、東京インド大使館からのご挨拶も予定しています。講演では、それぞれの領域での日々の実践、実装をお聞きいただくことで、ご参加の方々の視野・視界がさらに広がることでしょう。ぜひ、会場開催の機会を通して、私をはじめ、各講師陣とのご縁、交流も深めていただきたいと思います。

2026年は、7-10月の間に、3つの国際学会からご招待をいただき、日本におけるアールヴェーダの現状を発表させていただきました。発表内容は、医学教育、看護・介護、ウェルネスツーリズム、市町村健康構想、企業価値創造、災害医療など、これらすべては「アールヴェーダの社会実装」です。世界の長寿国日本における、アールヴェーダの発展・普及は、世界各国からご興味を持っていただく機会になりました。

最後に 西谷雅史大会長をはじめとして、各実行委員の方々、本研究総会開催に関わるすべての方のご尽力、ご協力にあたためて感謝申し上げます。



第48回 日本アールヴェーダ学会 東京研究総会 大会長

西谷 雅史 *Masashi Nishiya*

響きの杜クリニック 院長

このたび、第48回日本アールヴェーダ学会東京研究総会を、2026年10月31日・11月1日の二日間にわたり、大崎ブライトコアホールにて開催する運びとなりました。

本大会のテーマは「社会に息づくアールヴェーダへ ～暮らしの中から広がる共生の智慧～」です。

アールヴェーダは、単なる伝統医学や代替医療ではなく、人間を心・身体・環境を含めた全体として捉える「生命科学」としての体系を有しています。一方、現代西洋医学は、唯物論的科学に基づき、診断・治療技術を飛躍的に進歩させてきました。本大会で私たちが目指すのは、これら二つの医療体系を対立させることなく、それぞれの強みを活かしながら、調和的に統合していく「共生」のあり方を探究し、その智慧を社会に実装していくことです。

アールヴェーダが重視してきた予防、体質理解、生活指導、セルフケアの考え方は、日本人の暮らしや文化とも親和性が高く、日常生活の中に無理なく取り入れられる健康の智慧であると考えています。同時に医療現場においては、アールヴェーダ医による診断・処方・治療体系を、西洋医学の医師や医療体制が支え、補完し合う形で協働していくことこそが、これからの「共生医療」の一つの姿ではないでしょうか。

本大会では、こうした理念を語るだけでなく、暮らしの中で、医療の現場で、どのようにアールヴェーダを組み込み、機能させていくのか。その具体的な展開と発展の「実装モデル」を提示することを目的としています。その実現には、医師や研究者のみならず、製品・サービス・技術を通じて社会と医療をつなぐ産業界との協働が不可欠です。本研究総会が、学術・医療・産業が垣根を越えて出会い、対話し、共に未来を構想する場となることを願っております。

アールヴェーダの智慧を「学術の中」だけでなく「社会の中」へと息づかせる一歩となることを心より祈念し、皆さまのご参加、ご協力をお願い申し上げます。

第48回 日本アールヴェーダ学会 東京研究総会
大会長 西谷 雅史

भारतीय राजदूत, टोक्यो
Ambassador of India
Tokyo



2-2-11, Kudan Minami
Chiyoda-ku
Tokyo 102 0074



MESSAGE

It gives me great pleasure to convey my warm greetings to Ayurveda Society in Japan on its 48th General Conference on the theme "Ayurveda Rooted in Society."

Ayurveda represents India's ancient system of holistic health and well-being. With its emphasis on balance, prevention, healthy living and harmony between the body, mind and spirit, Ayurveda continues to remain relevant in the contemporary world.

The Government of India has accorded high priority to the promotion, development and global outreach of Ayurveda and other traditional systems of medicine. The establishment of the Ministry of AYUSH in 2014 marked an important step in this direction. Through the AYUSH Information Cell at the Embassy of India in Tokyo, we are committed to further strengthening awareness and understanding of India's traditional systems of health and wellness in Japan.

I hope that the deliberations at this Conference will further deepen mutual understanding, encourage meaningful dialogue, and open new avenues for cooperation between India and Japan in the field of Ayurveda and holistic wellness.

I extend my best wishes to all the participants of this conference.

(Nagma M. Mallick)

Tokyo
October 6, 2026

「社会に根ざすアーユルヴェーダ」をテーマに掲げる、日本アーユルヴェーダ学会 第48回学術総会が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

アーユルヴェーダは、健康と幸福を全人的（ホリスティック）に捉えるインド古来の伝統医学体系です。調和、予防、そして心身と精神のバランスを重んじるその叡智は、現代社会においてもなお色あせることなく、確かな意義を持ち続けています。

インド政府は、アーユルヴェーダをはじめとする伝統医療の振興と発展、ならびにその国際的な普及を極めて重要な政策課題と位置づけております。2014年のAYUSH（アユシュ）省設立は、その実現に向けた画期的な一歩となりました。現在、在日インド大使館内に設置されたAYUSH情報センターを通じて、日本国内におけるインド伝統の健康・ウェルネス体系への理解と普及に努めているところです。

本総会における活発な議論が相互理解を深め、実りある対話を促すとともに、アーユルヴェーダおよび全人的健康の領域において日印両国のさらなる連携を切り拓く契機となることを確信しております。

結びに、本総会のご成功と、ご参加の皆様のますますのご健勝ならびにご活躍を心より祈念申し上げます。

ナグマ・M・マリック
(Nagma M. Mallick)

東京にて
駐日インド大使
2026年 10月 6日



	1dayセミナー 2026年10月31日(土)	
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00	12:30～13:00	オープニングセレモニー 息吹之笛 演奏 演者：雲龍
	13:00～13:45	講演1 土のアーユルヴェーダ 三林 寛
14:00	13:45～14:30	講演2 亜熱帯に近づいた？日本の夏にスパイス食文化ができること 香取 薫
15:00	14:30～15:15	講演3 インド ウェルネスツーリズム パンチャカルマツアー28年継続の視点から見える成功のカギ 中川 真紀子
	15:15～15:45	休憩・ブース観覧
16:00	15:45～16:30	講演4 日本におけるアーユルヴェーダ教育を通してのウェルネス向上 クリシュナ U.K.
17:00	16:30～17:15	講演5 伝統医学の社会実装とDXの最前線：インドWHOサミット報告と「責任あるAI」への展望 吉野 鉄大
18:00	17:45～18:00	終 幕
19:00		
19:30		

	東京研究総会 2026年11月1日(日)	
9:00	9:15～9:30	大会長挨拶
10:00	9:30～10:30	基調講演 西谷 雅史・中島 佐知子 座長：中島 佐知子
	10:30～10:45	休憩
11:00	10:45～11:00	一般演題2 神経難病を持つ方への在宅ケア- 生活環境を活用した統合的アプローチ - 村中 みわ
	11:00～11:15	一般演題3 アムラ由来抗酸化成分による細胞老化抑制機構の解析 高氏 裕貴
	11:15～11:30	休憩
	11:30～11:45	一般演題4 Deha Raksha Viddhi (Therapy to protect body) of Kalari Marma Chikitsa in common neuromuscular disorders 一般的神経筋疾患に対するカラリ・マルマ治療法を用いたデーハ・ラクシャ・ヴィディ (身体を守るための治療法) Dr. Ipsita Panda
12:00	11:45～12:00	一般演題5 Limb preservation in diabetic foot ulcer through Ayurveda and Leech therapy - A case report アーユルヴェーダ治療とヒル療法による糖尿病性足潰瘍に対する四肢温存 ― 症例報告 Dr. Supriya Vivek Singh
	12:00～13:00	食事タイム
13:00	13:00～13:30	休憩
	13:30～14:00	教育講演 社会に息づくアーユルヴェーダにむけた日本の暮らしの中の共生の智慧：八福神と、聖徳太子の四箇院オンライン化の試み 上馬場 和夫 座長：木村 宏輝
14:00	14:00～15:00	招待講演 現代統合医療におけるアーユルヴェーダの可能性 - Integrative Medicineの理念と多職種連携の現場から - 伊藤 京子 座長：北西 剛
15:00	15:00～15:30	休憩・ブース観覧
16:00	15:30～16:30	動画出演 Dr.ゴークマール・S
17:00	16:30～18:00	トークセッション 100年後のアーユルヴェーダのために、今できること ～地域に根づくアーユルヴェーダ拠点づくりの提案～ 及川 史歩 ファシリテーター：北西 剛
18:00	18:00～18:10	終 幕（来年の告知）
	18:10～18:30	名刺交換タイム
19:00		
19:30		

2026
10/31 Sat.
11/1 Sun.

第48回
日本アーユルヴェーダ学会
東京研究総会・1dayセミナー

2026年 **10月31日** 土

1dayセミナー

UNRYU

雲龍

「新たなる音開き」

息吹之笛 -いぶきのふえ-

熊野檜・空之笛 -くまのひのき・くうのふえ-

横笛をはじめ、土笛、磐笛、コアガラスの笛、ネイティブフルートなど様々な笛を心に感じるままに演奏を行い、細野晴臣 with 環太平洋モンゴロイドユニットのメンバーでもあり、龍村仁監督映画「地球交響曲第六番」に出演、日本アーユルヴェーダ学会大阪研究総会で講演。2012 年より「陶笛・息吹之笛」の創作活動を行い、一つ穴、一音の響きの世界を伝えている。



鞍馬山、吉野、富士山ほか、さまざまな「場」で横笛をはじめ土笛、磐笛、コアガラスの笛、息吹之笛、ネイティブ・フルートなど様々な笛を演奏。1997 年より細野晴臣 with 環太平洋モンゴロイド・ユニットのメンバーとして活動。NHK 土曜ドラマ「ウォーカーズ」、龍村仁監督映画「地球交響曲第六番」虚空の音の章に出演。

ワタリウム美術館、横浜美術館、ルーテル学院大学、東京自由大学、大阪ビジュアルアーツ専門学校、朝日カルチャーセンター他にて講演・演奏。第三回世界水フォーラム、熊野世界遺産登録記念式典、平城遷都千三百年記念平城物語“まほろば”インド医療支援コンサート、奈良フォーラム・第三回アジアコスモポリタン賞授賞式式典で祝奏。2020 年には、日本アーユルヴェーダ学会大阪研究総会でオンラインによる講演・演奏活動を行なっている。

鹿島神宮、熱田神宮、近江神宮、伊勢・猿田彦神社、熊野三山、鶴岡八幡宮、椿大神社、廣田神社、天河大辨財天社 復興音楽祭、出雲大社大遷宮奉祝コンサートに参加、献奏。信州善光寺、薬師寺・天武忌法要、観音正寺、橘寺、岡寺、海龍王寺・四海安穩祈願法要、高野山・龍泉院、比叡山延暦寺根本中堂、平泉・中尊寺 他にて献奏。神社・仏閣をはじめ、インド・釈尊の聖地、ネパール、ミャンマー、台湾、韓国、カナダ、米国・グランドキャニオン、ハワイ島、英国・ダートムアの聖地 他での演奏を行い活動の場を広げている。演奏にあわせて、2012 年より「陶笛・息吹之笛」の創作活動を始め、各地で「息吹之笛の集い」を行い、一つ穴、一音の響きの世界を伝えている。



土のアーユルヴェーダ



三林 寛

Hiroshi Mibayashi

上田生協診療所内科医
結の手主宰・罌獵師

私は、体外の循環「体外フロー」を整えられる医師になるため、「半農半医」生活を始めました。病気の治療だけでなく、人間の生きる基盤である食・農・自然の循環そのものを健やかにしたいと考えたからです。しかし、最初に挑戦した自然栽培はなかなか上手くいきませんでした。そんな中、畑の「グライ土壌」（水が停滞して酸素が不足し、鉄が還元されて青白くなった土）の特徴が、アーユルヴェーダで言う「アーマ」（体内の未消化物や毒素）にそっくりであることに気づいたのです。これにより、アーユルヴェーダの知恵は人間の身体だけでなく、畑の土の改善にもそのまま応用できるのではないかと思いました。

アーユルヴェーダでは、心身の健康のために体内の「滞り」を無くし、不要なアーマを溜め込まないことが最も重要視されます。この原理は畑の土でも全く同じでした。最初に取り組んだのは、30 年間も耕作放棄され、排水路が詰まって沼地のようにになっていた土地でした。この土をアーユルヴェーダ的に診断すると、水の要素が停滞し、空気（風）が途絶えた状態です。そこで、滞っている排水を整え、土に空気を入れる作業を行いました。流れを復活させて土に空気を入れることで、見事に豊かな畑へと再生させることができました。

次に挑戦したのは、焼き物ができそうなほど硬く、麦を植えても貧弱な黄色い葉しか育たない粘土質の土壌です。こちらも同様にアーユルヴェーダ的に診断し、排水を整えて水の滞りを解消するとともに、有機物を投入しました。これにより土壌の代謝が活発になり、生命力あふれる豊かな畑へと生まれ変わりました。これらの経験をもとに、私は現在、「結の手」(ゆいのて)という屋号で、「体外フロー」を整える活動を続けています。「結の手」のミッションは、医・食・農・自然をつなぎなおすことで「体外フロー」を整え、楽しく、美味しく、みんなを元気にすることです。具体的な活動として、「医」の分野では、アーユルヴェーダを普段の生活に取り入れていただくべく、講演会や「あーゆる班会」を開催しています。「食」では旬の野菜を生かしたお料理教室、すんき漬け体験などのイベント「農」では自然栽培や微生物の力を借りる「菌ちゃん農法」、様々なイベントを行っています。

さらに今後は、狩猟を通じ、自然の循環の中で育ち滋養豊かなジビエを供給できる体制づくりにも挑戦しています。私たち人間の身体だけでなく、畑の土も全く同じアプローチで改善することができます。適切な循環とバランスを整えることで、自然は本来の豊かな生命力を自ら取り戻します。アーユルヴェーダは単なる医学ではなく、地球全体を貫く「自然の摂理」なのです。これからも「結の手」を通じて、自然とのつながりを取り戻し、多くの皆さまを楽しく・美味しく・元気にするべく活動していきたいと考えております。

略歴

某大学附属病院等にて消化器内科医として研鑽を積む。現代医学ではうまく対応できない病気が多いことに疑問を感じ、医局を辞めシンガポールへ移住。多様性に富む環境で「医学は身体のみに関わっているのでは」と視野が広がり、栄養・食事・農業・環境を学ぶ。その中で、身体外の物質やエネルギーの循環である「体外フロー」の乱れが病気の原因になると確信する。日本帰国後、「体外フロー」を実践で学ぶため半農半医生活を始め、アーユルヴェーダに出会う。能登にて「結の手」を立ち上げ、場づくりを始めるも、風力発電事業計画による健康被害の懸念から移転を余儀なくされる。2024 年、長野県青木村にて「結の手」を再始動。「楽しく・美味しく・みんな元気に!」をモットーに、自然と調和した健康的な生き方を提案すべく活動している。

所属団体等

日本アーユルヴェーダ学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会
日本アンチエイジング学会
日本キレーション協会

資格・肩書等

アーユルヴェーダ・ヒーリング・コンサルタント
獵師免許（罌）
能登里山海マイスター
日本キレーション協会認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

亜熱帯に近づいた？ 日本の夏にスパイス食文化ができること



香取 薫

Kaoru Katori

インド・スパイス料理研究家
有限会社 食スタイルスタジオ 代表取締役
料理教室 キッチンスタジオ ペイズリー 主宰

近年、日本の夏季における気温は5月中旬に既に30度を超える日があり、盛夏には40度を超えることも珍しくありません。これはもはや「温帯」と呼称するには不適切であり、エアコンは不可欠な家電となりました。都市部においては、室外機からの熱風が大気に排出され、舗装された道路では土壌と大気をつなぐ天然の湿度管理が機能せず、ヒートアイランド現象が発生しています。これらの現象はさらなる温度上昇を招くなど、悪循環を生み出し、日本の夏は近年大きく変化しています。このような酷暑、日差しや気温は、今後急激に回復するとは考えにくく、今後は毎年このような厳しい夏を想定する必要があります。これは日本にとって未曾有の局面と言えるでしょう。

広大なインドは冬季に雪が降る地域や涼しい高原、乾燥地帯など多様な気候帯を有していますが、全てを短時間で講演の対象とすると散漫なものになってしまうため、今回は夏季に焦点を当て、これからの日本の夏に食を通してインドが、そしてアーユルヴェーダが担いうる役割を具体的に考察したいと思います。40 年以上にわたるリサーチの中で、酷暑期のインドで食される料理にも数多く出会ってきました。これらは全て、その土地に根ざした意味のある養生食です。数品を例に取り、その特徴と有効性を分析し、日本で応用可能かどうかの検証も行いたいと思います。

そもそも、質の良いスパイスのほとんどが産出される地域は熱帯雨林気候と重なっています。今年6月に訪問したスリランカは雨季にあり、降水量、風、日差しが相まって植物が旺盛に成長する生命力を体感しました。その生命力の強さは驚くべきものでした。現代の貿易流通の進展により、私たちは今や日本でもこの恵みを享受することができます。インドやスリランカの食文化は、これからの日本に必要な知恵の宝庫であり、アーユルヴェーダの古典書という裏付けも存在します。

また、アーユルヴェーダ的に食を考察すると、食され嗜好的に歓迎されるものであっても、消化されなければ意味がありません。世界の食文化を考えると、「美味しく食せるか」までの評価で料理が語られる傾向があります。この基本的な「消化の重要性」は、一般にはまだ十分に認識されていないと言えるでしょう。まずはこの認識を広めることが、当学会の急務であると考えます。

アーユルヴェーダから「どのように食べるか」という概念を、食事内容の選択に結び付けることが、全人類の健康増進に寄与する社会の実現は、目前に迫っております。

インド、そしてアーユルヴェーダから学ぶべき時が来ています。

略歴

1985 年国際青年年ワークキャンプに参加。インド・オリッサ州でワークに携わり、食したインドの家庭料理に魅せられレシピ収集・習得と食文化リサーチを始める。各地でホームステイとリサーチを続けるうち、家庭料理はルールには縛られておらず、むしろ季節や体調で主婦らはスパイス使いを変えていることに気づき、「何がどのように寄与しているか」の答えがアーユルヴェーダにあることを知る。その後 2005 年より学会員として研鑽を積む。1992 年創業の料理教室では日本の気候や生活に則した健康的なスパイス使いをモットーとしている。

著書

アーユルヴェーダ健美食（径書房）稲村ヒロエ・シャルマ共著
アーユルヴェーダ食事法 理論とレシピ（径書房）佐藤真紀子共著
アーユルヴェーダ・カフェ（主婦の友社）上馬場和夫共著
チャラカの食卓 二千年前のインド料理（出帆新社）伊藤武共著
はじめての本格インドカレー教室（誠文堂新光社）他

所属団体等

日本香辛料研究会会員

インド ウェルネスツーリズム パンチャカルマツアー 28年継続の視点から見える成功のカギ



中川 真紀子

Nakagawa Makiko

Satvik アーユルヴェーダスクール
代表

アーユルヴェーダによる究極のデトックス、パンチャカルマ。インドで2～3週間かけて毒素を排泄し、カラダを立て直すための治療法である。

Satvik社は28年前から、日本人患者によるツアーを行ってきた。インド独特の諸事情、日本人のメンタリティ、パンチャカルマ治療の独特さなどを踏まえて、治療を成功に導くための経験を蓄積してきた。治療とツアーの成功のために必要なことはナニか？そこには、アーユルヴェーダの本質が隠れている。

略歴

1962年東京生まれ。国際基督教大学卒業後、欧州・中東などの滞在を経て、ニュースステーション、サンデーモーニングなどの報道番組に参画。1998年、師匠であるDr.Sadananda Prabhakar Sardeshmukh 博士に出会う。以来数千名の診療に立ち会い臨床経験を重ねる。日本アーユルヴェーダスクール専門科コース、大阪アーユルヴェーダ研究所薬理学コース卒業。現在も毎年インド各地の病院での研修を続けている。アーユルヴェーダをとりいれている医療機関、ハタイクリニックでセラピストとして治療にあたる一方、アーユルヴェーダ専門の通訳として会議、セミナーでも活躍。日本アーユルヴェーダ学会の学会誌「シャーンティ・マールガ」の編集長も勤めた。

所属団体等

日本アーユルヴェーダ学会理事

日本におけるアーユルヴェーダ教育を通しての ウェルネス向上



クリシュナ U.K.

Krishna U.K.

日本アーユルヴェーダ・スクール 校長、
NPO 法人日本アーユルヴェーダ研究所 副理事長

アーユルヴェーダ学会の理事長を長年務めておられた幡井勉先生。東邦大学の名誉教授であった先生は、1994年、現在「日本アーユルヴェーダ・スクール」という名前で知られている我々の組織を設立しました。日本の社会の健康管理にアーユルヴェーダが欠かせない時代が来るのではないかと考え、多くの人に正しいアーユルヴェーダを伝える決心をされたのです。幡井勉先生の創設の理念にかなうよう、当スクールはこれまで32年以上にわたり古典に基づいた真のアーユルヴェーダを、日本の食生活及び風土を考慮した上で希望者に教えてきました。初めの10年間の短いコース開催を経て、その後の社会ニーズに合わせ、より充実したカリキュラムへと発展。現在までの22年間、3つのレベルのコースで、理論と実践を組み合わせた授業を行っています。中でも大切にしているのは、古典が教える順序に即した流れでアーユルヴェーダを教育する、という点。その順序でアーユルヴェーダを学ぶことが最も優れたやり方であるという信念から、その学習法を日本でいち早くスタートさせたのが当スクールです。

また、今日、現代科学の視野でウェルネス向上に必須とされているものの多くは、太古からアーユルヴェーダ学問の中でも大事なものと考えられてきました。心身の相関関係、概日リズムの重要性、断続的断食（胃腸を休ませる）、カロリー・コントロール、運動の役割、生き甲斐・プラス思考・メンタルヘルス等。

当スクールでアーユルヴェーダを修めた卒業生の多くが、アーユルヴェーダの学びを通してそれらの重要性を理解、それぞれの日常生活においてアーユルヴェーダが説く“幸福で有益な人生”の実現に向けて実践と研究を重ねてきています。そのみならず、その方々が得た智慧がさまざまな形でご家族や友人、また周りの方々へとその輪を広げていくということも少なくありません。そういった形で日本社会の健康に資するというのが、日本におけるアーユルヴェーダ教育の32年間がもたらした大きな果実ではないかと考えています。

最後に、この教育の始まりにあたり、アーユルヴェーダという学問の素晴らしさとスクールが提供する教育の意義を認め、スクールの教育と運営に労を惜しまずご尽力くださった皆様の存在があったこともお伝えせねばなりません。日本で本格的なアーユルヴェーダ教育を始めてくださった幡井勉先生、そして、これまでの教育を支えてくださった方々の存在に感謝を忘れず、これからも日本社会の健康に役立つアーユルヴェーダ教育を続けて参りたいと願う次第です。

略歴

マイソール大学アーユルヴェーダ医学課程修了。インド国立グジャラート・アーユルヴェーダ大学大学院博士課程修了。1991年岡山大学医学部にて医学博士号取得。インド・ヨーロッパ・アメリカにおいても多数の講演やワークショップを行い、国を超えてアーユルヴェーダの普及に努めている。「古典から学ぶアーユルヴェーダ」など著書多数。日本アーユルヴェーダ研究所副理事長。

所属団体等

日本アーユルヴェーダ学会

資格・肩書等

BSAM
MD (AYU)
PhD (岡山大学医学部)
タボワンオープン大学 yoga and ayurveda (France) 名誉教授
SDM アーユルヴェーダカレッジハッサン 客員教員

伝統医学の社会実装とDXの最前線： インドWHOサミット報告と「責任あるAI」への展望



吉野 鉄大

Tetsuhiro Yoshino

慶應義塾大学医学部漢方医学センター特任講師
(全人的漢方診断共同研究講座)

2025 年 12 月、インド・ニューデリーで開催された「第 2 回 WHO 伝統医学グローバルサミット」において、最大の焦点となったのは伝統医学を各国の国家保健医療システムへ統合するための「AI とデジタル技術の活用」でした。世界的なリーダーシップのもとで伝統医学のデジタル化（DX）が凄まじい熱量で推進される一方、セッションの底流では「責任ある AI」や、テクノロジーが伝統知にもたらす歪みについての本質的な議論が交わされました。

現代の西洋医学においては、高度な検査技術によって多くの病態が可視化される一方、検査数値に異常が現れない「未病」や原因不明の不定愁訴（Medically Unexplained Symptoms, illness, やまい）に対しては、アプローチが限定的になりがちです。演者は普段、西洋医学の内科医をベースとして漢方外来を実践していますが、現代医療の標準化された枠組みからこぼれ落ち、一種の「切り捨て」を経験した患者たちが、最後の拠り所として漢方やアーユルヴェーダをはじめとする伝統医学・統合医療の外来を訪れる現状を日々痛感しています。西洋医学的な客観データの偏重によって患者個々の主観的な苦痛が不可視化されてしまう構造は、現代の医療システムが抱える大きな課題であり、同時に DX がもたらす最大の死角でもあります。伝統医学が有する「患者の主観や個別の文脈を汲み取る力」は、まさにこの死角を埋めるために不可欠な哲学であり、漢方とアーユルヴェーダが共通して持つ最大の強みに他なりません。

本講演では、同サミットのパネル登壇で議論した「責任ある AI」の世界的潮流を報告するとともに、当科が推進する漢方DXの実践例を紹介します。臨床におけるAIは、典型的な症例では高い予測精度を誇りますが、複雑な病態や「非典型例」に対しては正解率が極端に低下することを確認しています。デジタル化の過程でこぼれ落ちる、数値化しにくい「主観データ」や「文脈」をどう扱うべきか。AI を単なる効率化の道具に留めず、伝統医学が共通して重んじる「全人的（ホリスティック）な調和」や、数値化しにくい「個別の文脈」を損なうことなく社会実装するための技術的・倫理的課題について、インド現地の圧倒的な熱量と共に考えていきたいと思います。

略歴

2008 年慶應義塾大学医学部卒業。同大学病院初期臨床研修を経て、内科学と漢方医学を専攻。2016 年慶應義塾大学より博士（医学）学位取得。同年マンチェスター大学 HeLC 短期留学、2017 年オレゴン州立大学薬学部・ライナスポーリング研究所訪問研究員。2018 年より慶應義塾大学医学部漢方医学センター特任講師。厚生労働科学研究費や AMED 等の政府系研究資金において分担研究者を歴任するほか、WHO の「AI for Health」トピックグループメンバー、WPRO 臨時顧問として伝統医学のデジタル・AI イノベーションに関する国際政策提言に参画している。
【受賞歴】2024 年米国内科学会（ACP）Global Physician Scholar として米国の統合医療クリニックの視察、同年日本東洋医学会奨励賞、2026 年和漢医薬学会学術貢献賞など。

所属団体等

日本東洋医学会（研究推進委員会 委員長、参事、代議員、学術教育委員会 委員）、米国内科学会（In The Clinic 翻訳企画 QC チームリーダー、日本支部 Public Relations Committee アドバイザー・元副委員長）、和漢医薬学会（学術大会プログラム委員、若手研究者の会世話人）、国際代替医療研究会（ISCMR：Research Advisory Committee、Research Prize Reviewer）、国際日本漢方学会（ISJKM）。
国 際 学 術 誌「Global Advances in Integrative Medicine & Health」Associate Editor（2025-2028）、「Traditional & Kampo Medicine」Associate Editor（2023- 現在）。

資格・肩書等

医師、博士（医学）
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本東洋医学会漢方専門医・指導医
ECFMG Certificate（米国医師資格認証）、STEP3 合格
慶應義塾大学医学部医学教育フェロー
統計検定 2 級
知的財産管理技能士 3 級
JSA ワインエキスパート

2026年 11月1日 日

東京研究総会

基調講演
教育講演
招待講演

トークセッション

基調講演



西谷 雅史

Masashi Nishiya

響きの杜クリニック 院長

改めまして、日本アーユルヴェーダ学会第 48 回東京研究総会にご参加頂き、誠にありがとうございます。
本大会の開催にあたり、大会長として皆様を十分にお迎えし、その務めを全うすることが叶わなくなりましたことを、ま
ずもってお詫び申し上げます。

私事ではございますが、今年 7 月に脳梗塞を発症いたしました。
これまで自身の身体を顧みることなく日々を重ねてきたことを、今、あらためて振り返っております。現在も言語障害が
残っており、皆様と十分にコミュニケーションをとることが難しい状況にございます。

しかしながら、今回の病を得たことで、私は「医療者」から「一人の患者」へと立場を変えることとなりました。
そして、その過程で自らパンチャカルマを受ける機会を得、自身の身体と回復のプロセスに向き合うという、これまでと
は異なる視点から医療と健康を見つめる貴重な経験をいたしました。

本日の基調講演では内容を変更致しまして、医療を提供する側にいるだけでは見えなかったこと、患者となって初めて
感じたこと、そして、自らの心身に日々向き合うことの大切さ。今回の経験は、私自身にとって、アーユルヴェーダが単
なる医学体系としてではなく、一人ひとりの生き方や暮らしの中に息づく智慧であることを、あらためて考える機会とな
りましたのでその報告をさせていただきます。

第 48 回日本アーユルヴェーダ学会東京研究総会では、「社会に息づくアーユルヴェーダへ～暮らしの中から広がる共
生の智慧～」をテーマに掲げています。
アーユルヴェーダの智慧が、専門家や医療者だけのものではなく、人々の日々の暮らしの中に根づき、世代や立場を越え
て共有され、社会へと広がっていく。そのために私たちは何ができるのか。本研究総会が、その可能性を皆様とともに考え、
新たな一歩を踏み出す場となることを願っております。

本大会で交わされる学びと交流が、それぞれの暮らしへと持ち帰られ、やがて社会の中にアーユルヴェーダの智慧が息
づいていく——そのような研究総会となることを心より願い、私の体験談をもって基調講演とさせていただきます。

尚、本来なら大会長である私が基調講演をすべて執り行うべきなのですが、体調が万全でないことを鑑みて、パンチャ
カルマにご参加頂いた中島佐知子先生に、パンチャカルマの開催報告をベースに、先生からの視点での解説をお願いして
おります。

最後になりましたが、このような状況の中、本大会の開催に向けてご尽力くださった関係者の皆様、そしてご参加くだ
さるすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

略歴

1956 年 東京生まれ北海道大学医学部卒、
2006 年 統合医療を実践する 響きの杜クリニックを札幌で開業。

日本における滞在型パンチャカルマ治療の実践と課題
—「治療の四つの柱」から考える北海道合宿の報告と今後の展望—



中島 佐知子

Sachiko Nakajima

消化器内科医／医学博士
市立豊中病院 非常勤医師

パンチャカルマは、アーユルヴェーダの理論に基づき、増悪したドーシャの排出を通じて心身の均衡の回復を目指す治
療である。本講演では、日本における滞在型パン チャカルマ治療の実施経験を、古典に示された治療の成立条件と照らし
合わせ、その準備、運営上の課題および今後の展望を検討する。

2026 年 8 月 30 日から 9 月 6 日までの 8 日間、北海道のひびきの丘小学校を会場に、インドからアーユルヴェーダ医
師を迎え、患者 10 名を対象とした治療合宿を実施した。体制は、患者 10 名、アーユルヴェーダ医師 3 名、西洋医学医師 2 名、
看護師 4 名、セラピスト 6 名、調理スタッフ 5 名、統括スタッフ兼通訳 2 名、研修生 4 名、その他スタッフ 4 名で構成した。

『チャラカ・サンヒター』スートラ・スターナ第 9 章では、医師、薬剤、介護・施術を担う人、患者を治療の「四つの柱」とし、
それぞれの資質と協働を重視している。本合宿では、この原則を、治療方針の共有、薬剤・治療材料の確保、看護・施術
体制の構築、患者の理解と主体的な参加という実践上の視点から捉えた。医師の知識と経験に加 え、治療に使用する薬剤
と材料の品質および適切性、患者ケアを担う人の技術・思いやり・清潔性、患者が食事や生活の指示を実行し体調変化を
伝えること、これらすべてが、治療を支える基盤となる。

準備は開催約 1 か月前から開始し、オンラインコンサルテーションを通じて、各患者への食事・生活指導を行った。患
者には、合宿前の自宅での過ごし方も治療過程の一部であることを伝えた。また、使用する食材の選定と調達、食事提供
に関する打ち合わせ、薬剤・施術物品の準備、施術環境および宿泊施設の整備を進めた。滞在型治療では、施術のみならず、
食事、休息、生活環境を一体として整える必要があり、調理や施設運営を支えるスタッフとの連携も重要であった。

実施に際しては、患者ごとの治療と食事への対応、限られた施設・物品・人員の活用、言語を越えた情報共有、施術中
の困難への対応、費用と提供内容の調整など、多面的な課題に直面した。日本での実施においては、インドのアーユル
ヴェーダ医師の専門性に加え、日本の医療体制に即した対応が求められる。本合宿の経験から、西洋医学の医師、看護師
が参画し、アーユルヴェーダ医師やセラピストと連携する体制の必要性を検討する。今後は、各職種の役割と責任、患者
の状態把握、緊急時の対応、治療材料の管理、記録と情報共有の方法を明確にすることが課題である。

本講演では、実施体制と運営経験の共有を目的とし、実際の写真を用いて、準備、治療、食事提供の過程と運営上の工
夫を紹介し、苦労やコスト面の課題も共有する。今回の経験を次回 2027 年の合宿に生かし、日本で継続可能な滞在型パ
ンチャカルマ治療の実施体制を構築することを目指したい。

略歴

1999 年 関西医科大学卒業
2000 年 大阪大学第二内科入局
市中病院勤務後
2004 年 大阪大学医学部附属病院勤務
2010 年 大阪大学消化器内科学博士課程修了
2013 年 市立豊中病院消化器内科医長
2017 年以降 同病院非常勤医師として勤務

資格・肩書等

医師、医学博士、日本内視鏡学会専門医、
日本消化器病学会専門医、全米ヨガアライアンス RYT200

社会に息づくアーユルヴェーダにむけた日本の暮らしの中の共生の智慧： 八福神と、聖徳太子の四箇院オンライン化の試み



上馬場 和夫

Kazuo Uebaba

NPO 日本アーユルヴェーダ協会
理事長

人口減少や檀家離れなどにより仏寺の収入や存続が危ぶまれています。そこで、我々NPO日本アーユルヴェーダ協会では、令和元年から、寺子屋シャーラと呼んでアーユルヴェーダの生死の智慧を、日本の伝統文化と関連が深い神社仏閣と関連させながら普及することを開始しております。

アーユルヴェーダといえば、古代インドに起源をもつため同じ古代インド起源の仏教と相性がよいと思われます。実際、スリランカのアーユルヴェーダは、ヒンドゥー教よりも仏教的なアーユルヴェーダの基盤をもっています。しかしアーユルヴェーダというと、現代インドの文化や宗教にそった生活習慣や言葉、薬草やグッツを使うことがほとんどです。たしかに、近年の日印の経済&文化交流の進展により、インドのものが日本でかなり受け入れられやすくなりました。しかし、インドだけでなく、日本的な良さをできるだけ取り入れることで、もっと広く日本での普及を図ることができるのではないかと我々は考えています。

ただ、人類の歴史において戦争や紛争のもと、宗教戦争とも呼べるものなので、宗教性が強くなると、国内外で問題を起こす危険性があります。寺子屋シャーラ活動では、そのような宗教性をなくすべく、宗教ではなく哲学（二元論：サーンキャ哲学、不二一元論：ヴェーダンタ哲学）を学ぶ企画も提案しています。また、現代西洋科学の最先端である量子物理学にも注目して、宗教を和合する活動も活発になってきました。実際ドラマ自身も、「仏教は量子物理学だ」とも述べられておられます。ただ、これらの理論的な概念は万人が理解することが困難です。もっと日本的でヒンドゥー教でも受け入れられている世界観として、アニミズム（自然崇拜）を取りこむことで、アーユルヴェーダの日本への普及が進むと考えています。実は「七福神」という日本人的な全てを受け入れる信仰の形態があることを、田中英道氏が提唱されています（田中英道：『日本の宗教 本当は何がすごいのか』育鵬社、2014）。インドのヒンドゥー教の3神と中国の3神、日本の恵比寿神の合計7神に加え、昭和に入ってクリスマスを祝う風習も日本に定着してきたことから、宗派を超えた捉え方をする日本人は、サンタクロースが幼少時期からクリスマスの幸せな体験の象徴となっています。サンタクロースは、実は北極圏のラップランドが故郷ですので、キリスト教というより、ラップランドのシャーマニズムの神様とも言われています。以上合計、8つの神様が最近の日本では、福の神になっているため、前出の田中英道氏は、「八福神」が日本の文化の背景にあると言われています（同著）。

これら八福神には、福を象徴するように、共通して「笑い」があります。また、ヒンドゥー教や神道には、自然崇拜アニミズムとシャーマニズムが根底にあります。つまり、「笑いとシャーマニズム&アニミズム」が宗教を超えたものとして、日本人には幸せの元だと認識されてきたのです。このような七福神や八福神は、多様性の和合のひな型ではないでしょうか。良いものは全てそのまま認めるという日本的で平和的な概念を、まさに生命の科学アーユルヴェーダの日本での捉え方として、インド、中国、現代の医学体系の3つを和合したものと我々は提唱したいと思います。

また、日本において神道、仏教、道教、儒教、さらには景教（東方キリスト教）をも受け入れて和合させた聖徳太子は、医療と福祉・教育を統合させた四箇院というホリスティックなシステムを大阪の四天王寺の傍につくりました。これは、当時世界一の文明国であった隋の天台仏教を取り入れたものでしたが、聖徳太子没後100年くらいに、一時衰退した後、疫病の蔓延に対処すべく奈良の大仏を建立した聖武天皇のお妃、光明皇后が一時的にリバイバルしました。しかし、その後、国分寺という形になって、ホリスティックな施薬院や療病院はなくなりました。

NPO日本アーユルヴェーダ協会では、ホリスティックな四箇院を現代にリバイバルさせて、医療と宗教、福祉、教育の和合したシステムの中で、二元論、不二一元論、アニミズムなどを3即一として学びながら、八福神を大切にす平和的な和合の思想の元、幸福を生きる生死の智慧であるアーユルヴェーダを、日本アーユルヴェーダ学会やALA協会その他の組織と和合しながら普及させることを目指しています。

略歴

1978年広島大学医学部卒業。卒業時から東西医学融合をライフワークと決め、虎の門病院内科、北里研究所臨床薬理研究所 研究室長六本木クリニック院長などを歴任。1994年 シドニー・セントヴィンセント病院SVH肺心臓移植センターにて脈診を臨床生理学的に研究。1999年、富山県国際伝統医学センターにて、インド、イスラム諸国、中国、ペルーなどの各国の伝統医学を調査。2008年、富山大学和漢医薬学総合研究所未病研究部門客員教授。2011年から帝京平成大学ヒューマンケア学部教授。元日本統合医療学会指導医。NPO 法人日本アーユルヴェーダ協会理事長。一般社団法人日本アーユルヴェーダ学会理事。ハリウッド大学院大学特任教授。東西医学の融合をすることで、「幸福を生きる生死の智慧であるアーユルヴェーダ」を普及させる活動を行っている。著作:「新版インドの生命科学アーユルヴェーダ、農文協、2018」「アーユルヴェーダとヨーガ改訂第三版、金芳堂、2017」など。

所属団体等

日本東洋医学会	日本仏教看護ビハーラ学会
日本東方医学会	日本山岳修験学会
日本アーユルヴェーダ学会	NPO 日本アーユルヴェーダ協会
日本抗加齢学会	一般社団法人日本アガスティアライフサイエンス協会

資格・肩書等

ハリウッド大学院大学特任教授

現代統合医療におけるアーユルヴェーダの可能性 - Integrative Medicineの理念と多職種連携の現場から -



伊藤 京子

Kyoko Ito

名古屋大学大学院医学系研究科
総合診療科 客員研究員
(神宮前統合医療クリニック)

【背景と目的】

演者は Andrew Weil 博士が 1994 年にアリゾナ大学に設立した Andrew Weil Center for Integrative Medicine (AWCIM) のフェロシッププログラムを修了した。AWCIM は Integrative Medicine を「最善の西洋医学と、証拠に基づく補完的アプローチを統合し、患者を心身霊の全体として診る医療」と定義し、アーユルヴェーダを中医学・手技医学とならぶ「Traditional Whole Systems of Healing」のひとつとして正式に組み込んでいる。アーユルヴェーダが古来より実践してきたプラクリティに基づく個別化・全体論的医療観は、この理念と本質的に通じるものであり、現代医学との学術的架橋が求められている。

【多職種連携の実践】

名古屋大学総合診療科は 2012 年、医師・漢方医・臨床心理士・ヨーガ療法士・鍼灸師・アロマ療法士・管理栄養士・運動療法士からなる学際的統合ヘルスケアチームを結成した。ラウンドテーブルディスカッションを核とした協働診療モデルのもと、現代西洋医学では対応が困難な慢性・機能性疾患に対して各専門家の視点を統合したアプローチを実践してきた。この経験は、アーユルヴェーダが本来もつ全人的医療観を現代の多職種連携という形で具現化する試みでもあった。現在は統合医療クリニックにおいて、生体情報解析および遺伝子多型解析に基づく精密栄養評価を活用しながら、アーユルヴェーダ的な全体論的視点を個別化診療に応用している。

【考察と結語】

Weil 博士の Integrative Medicine 概念とアーユルヴェーダの全体論的医療観は、個別化・患者中心・心身統合という点において本質的に通じる。多職種協働モデルに現代の生体科学・精密栄養学を接続した臨床実践は、アーユルヴェーダの知恵が現代科学と対話しながら根づくための一事例として、東西医学の架橋に資するものと考える。

キーワード：アーユルヴェーダ、統合医療、Integrative Medicine、Andrew Weil、精密栄養、多職種連携、個別化医療

略歴

2001 年東海大学医学部卒業・医師免許取得。総合診療・家庭医療研修を経て、2006 年名古屋大学医学部附属病院総合診療科医員、同年名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学専攻。2008 年アリゾナ大学統合医療フェロシッププログラムに参加、2010 年修了。同年より名古屋大学医学部附属病院研究員として統合ヘルスケアチームに所属。2021 年より子どもの心身医療にも携わり、現在、名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学客員研究員、および神宮前統合医療クリニックにて統合医療を実践。

所属団体等

日本プライマリ・ケア連合学会、日本抗加齢医学会、
NPO 法人日本ホリスティック医学協会、日本産業医学会、
日本人間ドック学会

資格・肩書等

医師免許、日本医師会認定産業医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、
日本抗加齢医学会専門医、米国ヨガアライアンス認定 RYT500

100年後のアーユルヴェーダのために、今できること ～地域に根づくアーユルヴェーダ拠点づくりの提案～



及川史歩

Shiho Oikawa

ダンヴァンタリ アーユルヴェーダ スクール
校長

アーユルヴェーダは近年、日本においても体質診断、食事法、オイルトリートメント、スパイス、ヨーガ等を通じて広く知られるようになってきた。一方で、その広がりはいしばしば断片的であり、資格取得、商品に直結した広告、美容、癒しなど流行語として消費されうる危うさも併せ持っている。

本来のアーユルヴェーダは、食事、睡眠、排泄、季節、年齢、土地、身体の手入れ、心の状態、人間関係などを含め生活全体を総合的に捉える知である。したがって、日本社会においてアーユルヴェーダを長く根づかせるためには、単発の講座や施術、商品販売だけでは不十分であり、地域の中に継続的な「受け皿」を作る必要があると考える。トークセッションでは、三鷹で進めている教育、食、地域連携、広報、健康相談と施術の取り組みを一つの事例として紹介しながら、他地域・他施設でも応用可能な「地域におけるアーユルヴェーダ拠点」モデルを提案する。

具体的には、

- ① 学ぶ機能
- ② 食べる機能
- ③ つなぐ機能
- ④ 伝える機能
- ⑤ 守る機能
- ⑥ 触れる機能

の六つに整理する。

「学ぶ機能」では、アーユルヴェーダを知識や資格としてではなく、生活の中で誠実に扱える人を育てる教育の重要性を扱う。「食べる機能」では、日本の季節や食材を通じて、アーユルヴェーダを日常の食卓に接続する可能性を考える。「つなぐ機能」では、農家、作家、食材、器、食べる人など、作り手と受け取り手の間に生まれる地域的な関係性、協働を取り上げる。「伝える機能」では、言葉とデザインが信頼形成に果たす役割を考察する。「守る機能」では、薬機法、食品表示、広告表現など、日本社会で安全にアーユルヴェーダを広げるための、関係法令に沿って適切に運営する重要性を確認する。「触れる機能」では、施術を通じて身体を整えて生活を豊かにするアーユルヴェーダケアの可能性を述べる。すべての地域や施設が、教育、食堂、施術所、物販、国際連携を一度に備える必要はない。月一回の勉強会、季節の料理講座、セルフケアの会、地域の農家との協働、言葉を整えた発信など、小さな機能から始めることができる。

本セッションの目的は、特定施設の事業紹介ではなく、アーユルヴェーダを一時的なブームで終わらせず、日本の暮らしの中に長く根づかせるための社会実装に向けたモデルを共有することである。100 年後に残るものは、商品や流行ではなく、人、場、言葉、暮らしと信頼である。そのために今、各地域でどのような受け皿を作ることができるのかを共に考えたい。

略歴

2011 年インド国立グジャラート・アーユルヴェーダ大学（現 ITRA）卒業後、カルナータカ州マニパル大学パンチャカルマ科にて研修。同年、日本アーユルヴェーダスクールにて講義を担当しながら、ハタイクリニックにてアーユルヴェーダ医としてコンサルテーション開始。2015 年、ITRA パンチャカルマ修士課程入学、リウマチ性関節炎とパンチャカルマ療法について研究し、2018 年修士課程修了（M.D.Panchakarma）。2025 年、ダンヴァンタリ アーユルヴェーダ スクールを設立。現在、古典における正統なアーユルヴェーダを日本人に教育すること、安全安心なディナチャリヤ実践の普及、古典的アーユルヴェーダを理解し、現代日本で実践することを目的としたいくつかの研究会、勉強会を主催。日本人セラピストたちと日本人が日本で受ける日本流のパンチャカルマ、アーユルヴェーダ療法を実践・普及することに力を注いでいる。

所属団体等

日本アーユルヴェーダ学会理事
NPO 法人日本アーユルヴェーダ研究所理事

称号・資格

インド政府認定アーユルヴェーダ医（B.A.M.S.）
パンチャカルマ修士（M.D.Panchakarma）

2026年 11月1日 日

東京研究総会

一般演題

痔瘻治療におけるアーユルヴェーダ・クシャーラスートラの
現状と課題：スコーピングレビュー

亀森 奈緒子

Naoko Kamemori

ITRA ジャムナガール、シャルヤタントラ（外科学）学部、
博士課程

Dr. T. S. Dudhamal

Dr. T.S. ドッドゥマル

ITRA ジャムナガール、シャルヤタントラ（外科学）
学部長・教授

痔瘻は慢性的な炎症性肛門直腸疾患であり、従来の外科的治療では再発、創傷治癒の遅延、術後感染、肛門括約筋損傷による便失禁などが課題である。

アーユルヴェーダの伝統的治療法であるアパーマールガ・クシャーラスートラは、病的組織を化学的に焼灼し、排膿を促進するとともに、瘻管を徐々に切開しながら肉芽形成と創傷治癒を促すことで、括約筋への侵襲を最小限に抑える。一方、原材料の入手困難や糸交換時の疼痛などの課題があり、他素材のクシャーラスートラの活用が検討されている。

本研究では、PRISMA-ScR ガイドラインに準拠したスコーピングレビューを実施し、PubMed/MEDLINE、Google Scholar、Scopus およびアーユルヴェーダ関連データベースを検索した。痔瘻患者に対するクシャーラスートラ療法の臨床的有効性、治癒成績、再発率、Unit Cutting Time（UCT）、術後合併症、安全性を評価した研究を対象とし、抽出したデータを記述的に統合・解析して、現在得られているエビデンスの特徴と知見を整理し、考察する。

キーワード： アーユルヴェーダ、痔瘻、クシャーラスートラ

神経難病を持つ方への在宅ケア
- 生活環境を活用した統合的アプローチ -

共同研究者

村中 みわ

Miwa Muranaka

看護師・鍼灸師・大阪アーユルヴェーダ研究所
薬学専門講座

共同研究者

イナムラ・ヒロエ・シャルマ

Inamura Hiroe Sharma

大阪アーユルヴェーダ研究所

北西 剛

Tsuyoshi Kitanishi

きたにし耳鼻咽喉科院長

【背景】

大脳白質の変性を伴う進行性の神経難病は、患者数が極めて少なく、推定患者数と受給者証所持者数との間に大きな乖離がみられる疾患群がある。この乖離は医療者間の認知不足を示唆する。重複障害を持つ方は支援からこぼれ落ちやすい。本報告では在宅ケアの関わりから本質的な病態を見出し、三つの視点を統合した実践を報告する。

【対象】

成人期の方。共同生活の場に入居されており、言語による訴えが困難。引継ぎ時「難病がある」との情報のみであったが、関係構築を経て大脳白質の変性を伴う進行性の神経難病である旨を確認し、退行性疾患としての経過を把握した。同疾患群は遺伝子異常により複数病型に細分類されるが、下位分類の確定診断については情報を得られていない。

【アーユルヴェーダの視点による病態理解】

大脳白質の変性による錐体路・錐体外路系の障害は 24 時間継続する痙縮を生じさせる。これはヴァータ亢進として理解でき、この状態が慢性化することでエネルギー消耗・体重減少を招く。また、常に皮膚に剪断がかかることや低栄養（中性脂肪低値）による乾燥からも、褥瘡形成という負のループにつながると考えられる。一見「だらしない」と映りやすい特異な姿勢も、神経系の過負荷状態への適応反応として捉えられる。

【ケアの経過】

初期は公園の段差を活用した足関節背屈促進と踵着地の再学習を実施した。その後、身体的負荷を考慮し、居室での最小限のケアに転換した。

【現在のアプローチと多職種連携】

担当者会議では検査データを統合的視点で読み直し、座位保持具と栄養剤の導入を提案、多職種 6 名の意見を一致させた。座位保持具下部のポールを把持することで、上肢を内旋位から外旋位へと誘導し、肩甲骨の下制と頸部アライメントの安定化を図った。加えて、枕とクッションを大腿前面に重ねて持続的な接触圧（固有感覚入力）を高めることで、不安定な体性感覚に由来するヴァータの動揺が鎮静化し、全身の過緊張緩和へつながったと考えられる。これらが嚥下機能の改善や上肢帯可動域の向上につながりつつある。

【考察】

アーユルヴェーダと鍼灸の視点を重ねることで、大脳白質の変性という本質的な病態がより明確に見えてきた。これにより難病の本質を可視化し、生活環境の素材をケアの実践の場へと変えた。三つの視点を統合した病態理解を具体的な提案へと翻訳し、多職種がそれを受け止め実践に反映したことが、制度の狭間に落ちやすい方を支える「共生」の実践であり、在宅ケアにおける補完医療の実装モデルであると考ええる。

アムラ由来抗酸化成分による細胞老化抑制機構の解析

高氏 裕貴

Yuki Takauji

横浜市立大学・イチバンライフ株式会社

哺乳類細胞は、酸化ストレスなどにより不可逆的に増殖を停止し、細胞老化に至る。細胞老化は組織機能の低下や個体老化に関与するため、その制御は健康寿命延伸の観点から重要である。アムラ（Emblica officinalis）は、アーユルヴェーダにおいて若返りや健康維持を目的に古くから用いられてきた代表的なハーブであり、強い抗酸化作用を有する。

本研究では、アムラからヒト細胞における主要な抗酸化活性を担う成分を同定した。本成分は細胞内活性酸素種を低下させ、X 線照射による DNA 損傷および細胞老化を抑制した。さらに、細胞増殖を促進し、複製寿命を延長するとともに、増殖因子やサイトカイン関連遺伝子の発現を亢進した。

以上より、本成分は抗酸化作用と細胞増殖促進作用を介して細胞老化を制御し、アムラの健康効果に寄与する可能性が示された。

Deha Raksha Viddhi (Therapy to protect body) of Kalari Marma Chikitsa in common neuromuscular disorders

一般的な神経筋疾患に対するカラリ・マルマ治療法を用いた
デーハ・ラクシャ・ヴィディ（身体を守るための治療法）

Dr. Ipsita Panda

Dr. イプシタ・パンダ

PhD Scholar, Sharir Rachana Dept., ITRA,
Jamnagar, Gujarat, India
ITRA ジャムナガール、シャーリーラ・ラチャナ（解剖学）学部、博士課程
pandaipsita82@gmail.com

Dr. T. S. Dudhamal

Dr. T.S. ドッドゥマル

Professor & HOD, Shalya Dept.,
ITRA, Jamnagar, Gujarat, India
ITRA ジャムナガール, シャルヤタントラ（外科学）学部長・教授
drtsdudhamal@gmail.com

ABSTRACT

Deha Raksha Vidhi (or therapeutic procedures to protect body) of Kalari Marma Chikitsa (an ethnic Indian treatment regimen followed by martial art practitioners of Southern part of India) can be acknowledged as one of the holistic approach which encompasses the essence of Ayurvedic treatment to alleviate neuromuscular diseases like peripheral neuropathies/neuralgia, myopathies/myalgia, etc. These procedures are also helpful in some cognitive and arthrological conditions. The procedure not only prevents these conditions but can also cure while using minimal or complete avoidance of oral medicines. In Ayurveda Marma points are mentioned considering the vital structures in the body. Marma treatment generally comprises of Marma point massage and stimulation, manipulation of joints, and sudation. This study will describe practices of Kalari Marma Chikitsa as one of the treatment procedure to treat neuromuscular disorders.

Keywords: Ayurveda, Kalaripayattu, Marma Chikitsa

カラリ・マルマ治療法（南インドの武術家が実践するインドの伝統的な治療法）におけるデーハ・ラクシャ・ヴィディ（身体を守るための治療法）は、アーユルヴェーダ治療の本質を包含したホリスティックな治療法の一つとして位置づけられている。この治療法は、末梢神経障害や神経痛、筋疾患や筋痛症などの一般的な神経筋疾患の症状緩和に有用であり、さらに一部の認知機能障害や関節疾患に対しても効果が見られる。また、疾患の予防だけでなく、経口薬を最小限に抑えるか、全く使用せずに治療することも可能である。アーユルヴェーダでは、マルマは身体の重要な解剖学的構造として定義されており、マルマ治療法は一般的に、マルママッサージ、マルマ刺激、関節のマニピュレーション、発汗療法（スウェーダナ）を組み合わせて行われる。本研究では、神経筋疾患に対する治療法の一つとして、カラリ・マルマ治療法の実践とその治療的意義について概説する。

キーワード： アーユルヴェーダ、カラリパヤット、マルマ治療

Limb preservation in diabetic foot ulcer through Ayurveda and Leech therapy - A case report

アーユルヴェーダ治療とヒル療法による 糖尿病性足潰瘍に対する四肢温存 — 症例報告

Dr. Supriya Vivek Singh

Dr. スプリヤ・ヴィヴェク・シン

PhD scholar, Department of Shalya Tantra, Institute
of Teaching and Research in Ayurveda, Jamnagar.
Gujrat. 361008. India

ITRA ジャムナガール, シャルヤタントラ (外科学) 学部, 博士課程

Dr. T. S. Dudhamal

Dr. T.S. ドウドウマル

Professor, Department of Shalya Tantra,
Institute of Teaching and Research in Ayurveda,
Jamnagar. Gujrat. 361008. India.

ITRA ジャムナガール, シャルヤタントラ (外科学) 学部長・教授

ABSTRACT

Diabetes mellitus (DM) is one of the most common risk factors for peripheral arterial disease (PAD). Partial or complete obstruction of arteries in diabetic patients, more commonly in lower extremities can lead to foot ulceration and gangrene. Associated neuropathy and vascular insufficiency together with high glucose levels are the causative factors for high amputation rate in diabetic patients. A 44-year-old male patient with 15-year history of type 2 diabetes mellitus (T2DM) presented with blackish discolouration of right greater toe for last one month. Local examination revealed localised gangrene with feeble pulsation in peripheral arteries. The patient underwent surgical debridement of gangrenous tissue and 5 sittings of *Jalaukavacharan* (leech therapy) were done. Wound dressing was done with *Katupila* (*Securinega leucopyrus*) oil. Anti-hyperglycemic medicines and Ayurvedic internal medicines namely, *Kaishor guggul* 500mg tablet three times a day, *Guduchi churna* (*Tinospora cordifolia*) 5g twice a day were continued throughout the treatment period. The postdebridement wound (4×3.5cm²) healed completely within three months without any complications. This case demonstrates successful wound healing and limb preservation in a case of gangrene toe with severe PAD in a diabetic patient with local and systemic Ayurvedic medications and leech therapy.

Keywords: Ayurveda, Gangrene, Diabetic foot ulcer, Leech therapy, *Katupila*, *Securinega leucopyrus*.

糖尿病は、末梢動脈疾患の主要な危険因子の一つである。糖尿病患者における動脈の部分的または完全閉塞は、下肢で高頻度に認められ、足部潰瘍や壊疽の発症につながる。高血糖状態に加え、神経障害および血管機能不全が複合的に関与することが、糖尿病患者における高い下肢切断率の要因となっている。本症例では、44 歳男性が、15 年間の 2 型糖尿病の既往を有し、1 か月前から右足母趾の黒色変色を認めて来院した。局所診察では、末梢動脈の拍動低下を伴う限局性壊疽が確認された。患者は壊疽組織の外科的デブリードマン（壊死組織除去術）を受け、その後、*Jalaukavacharan*（アーユルヴェーダのヒル療法）を 5 回施行した。創部の処置には *Katupila* (*Securinega leucopyrus*) オイルを用いた。血糖降下薬およびアーユルヴェーダの内服治療薬である *Kaishor guggul* 500 mg を 1 日 3 回、*Guduchi churna* (*Tinospora cordifolia*) 5 g を 1 日 2 回、治療期間を通じて継続投与された。デブリードマン後の創傷 ($4 \times 3.5 \text{ cm}^2$) は、合併症を伴うことなく 3 か月以内に完全治癒した。

本症例は、重度の末梢動脈疾患を伴う糖尿病患者の足趾壊疽に対して、局所および内服を含むアーユルヴェーダ治療とヒル療法を組み合わせることで、良好な創傷治癒と四肢温存が達成されたことを示している。

キーワード：アーユルヴェーダ、壊疽、糖尿病性足潰瘍、ヒル療法、*Katupila*, *Securinega leucopyrus*.

【メモ欄】

企業ブース(ホワイエ内)のご案内

展示時間

10/31(土) ▶ 12:00 ~ 18:00 (設営時間: 10:00~12:00)

11/1(日) ▶ 10:00 ~ 15:30 (撤収時間: 15:30~17:00)

出展企業名

1	NPO 法人日本アーユルヴェーダ研究所
2	一般社団法人日本先制臨床医学会
3	日本トリム株式会社
4	株式会社トモ・コーポレーション
5	イチバンライフ株式会社
6	株式会社すかい 21
7	株式会社ティラキタ
8	テテスマニス

A	日本アーユルヴェーダ学会事務局 せせらぎ出版
---	---------------------------

3F OSAKI BRIGHT CORE HALL Floor guide

大崎ブライトコア ホール
企業ブース MAP



広告出稿 個人・企業様

- 株式会社ティラキタ 様
- ayurveda diary works. 様
- 一般社団法人日本先制臨床医学会 様
- きたにしクリニック 様
- ダンヴァンタリ アーユルヴェーダ スクール 様
- 株式会社トゥーリア 様
- ヘアーズビット 様
- アーカーシャ 様

応援・ご寄付をいただいた皆様

- 的射場史彦 様
- 北西剛 様
- 飯田重寿 様
- 臼井雅明 様
- 浅貝賢司 様
- 新保真琴 様

第48回 日本アーユルヴェーダ学会
東京研究総会 実行委員一覧

実行委員長 | 萩原千景

- | | | | |
|------|--------|------|-------|
| 実行委員 | 中田千明 | 齊藤祥子 | 梅沢弘子 |
| | 石井あゆみ | 山本昌美 | 山屋俊恵 |
| | 高橋由美子 | 穂積幸奈 | 永井由利江 |
| | 花田彩乃 | 岡田結 | 坂井昭江 |
| | 與那嶺千栄子 | 新井万亀 | |
- | 飯田重寿 臼井雅明

謝 辞

第48回 日本アーユルヴェーダ学会
東京研究総会の開催にあたりまして、
会員各位をはじめ多くの方々にご協力を賜り
厚く御礼申し上げます。
また、多くの企業・個人様にご協賛、広告、
寄付によりご支援を賜りました。
ここに、厚く御礼申し上げます。

2026年10月1日

一般社団法人 日本アーユルヴェーダ学会
理事長 北西 剛

第48回 日本アーユルヴェーダ学会 東京研究総会
大会長 西谷 雅史



AYURVEDA SOCIETY IN JAPAN
THE 49TH GENERAL CONFERENCE IN KANSAI

第49回 日本アーユルヴェーダ学会 関西研究総会・1dayセミナー

テーマ

日本における アーユルヴェーダの原点 ～ハタイスピリットへの回帰～

プレイベント

9月中旬開催 in 宮崎 予定

1dayセミナー

リアルタイムオンライン配信

5月末～6月末【毎週日曜日 19時～20時】

全5回 5/30・6/6・6/13・6/20・6/27

研究総会

10～11月頃 開催予定 in 大阪 予定

大会長
幸田 麻紀

按摩マッサージ指圧師
ハタイ自然療法センター
代表



開催日		会場		大会長
第1回	1975年11月2 - 3日	大阪	観心寺	丸山博
第2回	1977年5月21 - 23日	大阪	関西地区大学セミナーハウス	丸山博
第3回	1981年7月3 - 5日	京都	京都旅行会館・染色会館	中川米造
第4回	1982年7月24 - 26日	東京	野口英世記念館・箱根湯本ホテル	幡井勉
第5回	1983年7月1 - 3日	長野	諏訪市民会館	宮坂有勝
第6回	1984年9月14 - 15日	奈良	吉野山会館	丸山博
第7回	1985年10月22日	富山	立山観光ホテル	難波恒雄
第8回	1986年11月2 - 3日	東京	東邦大学医学部	幡井勉
第9回	1987年10月17 - 18日	岡山	カルチャーホテル	菅波茂
第10回	1988年9月17 - 18日	大阪	国際交流センター	中川米造
第11回	1989年9月9 - 10日	盛岡	岩手大学人文社会学部	佐藤道郎
第12回	1990年9月29 - 30日	横浜	神奈川県医師会館	杉田暉道
第13回	1991年9月14 - 15日	松江	ホテル宍道湖	木村慧心
第14回	1992年10月2 - 4日	京都	龍谷大学大宮学舎静和館	奈倉道隆
第15回	1993年11月23 - 24日	金沢	白雲楼ホテル	多留淳文
第16回	1994年9月3 - 4日	千葉	東邦大学薬学部	高橋澄子
第17回	1995年11月23 - 24日	福岡	第一薬科大学	松岡伯青
第18回	1996年11月6 - 7日	富山	富山県民会館	難波恒雄
第19回	1997年11月15 - 16日	横浜	神奈川県民ホール	杉田暉道
第20回	1998年10月30日 - 11月1日	福井	福井大学	山崎正
第21回	1999年10月2 - 3日	奈良	奈良県文化会館	山内宥厳
第22回	2000年10月7 - 9日	東京	こまばエミナース	幡井勉
第23回	2001年10月6 - 7日	福島	日本大学工学部	熊代永
第24回	2002年10月13 - 14日	大阪	アウィーナ大阪	佐藤任
第25回	2003年10月11 - 12日	岡山	倉敷市芸文館	柴田高志
第26回	2004年11月27 - 28日	北海道	北海道大学学術交流会館	平田章一
第27回	2005年11月12 - 13日	静岡	静岡市市民文化会館中ホール	長澤宏
第28回	2006年9月23 - 24日	富山	富山県民会館	小松かつ子
第29回	2007年11月12 - 13日	沖縄	沖縄コンベンションセンター	崎浜キヌ
第30回	2008年10月25 - 26日	兵庫	宝塚ホテル	けむら・ヒロエ・シャルマ
第31回	2009年11月27 - 28日	東京	ベルサール六本木	上馬場和夫
第32回	2010年10月23 - 24日	広島	広島国際会議場	のままりこ
第33回	2011年10月29 - 30日	金沢	石川県立音楽堂	御影雅幸
第34回	2012年9月17 - 18日	東京	國學院大學	吉次通泰
第35回	2013年4月19 - 20日	宮崎	フェニックスシーガイア	緒方盛道
第36回	2014年10月25 - 26日	岡山	倉敷市民会館大会議室	柴田高志
第37回	2015年5月8 - 10日	兵庫	神戸ポートピアホテル・チサンホテル神戸	北西剛
第38回	2016年4月22 - 24日	埼玉	大宮ソニックシティ	木村宏輝
第39回	2017年7月6 - 9日	福岡	福岡国際会議場	徳永雄一郎
第40回	2018年10月19 - 20日	金沢	石川県地場産業振興センター	佐々木陽平
第41回	2019年10月14日	東京	東京国際交流館	宇住晃治
第42回	2020年10月3日 - 12月31日	大阪	オンライン配信	田澤賢次
第43回	2021年9月24日 - 11月30日	福島	オンライン配信	舟久保徳美
第44回	2022年10月8 - 10日	名古屋	名古屋国際会議場	梅枝覚
第45回	2023年10月1日	神戸	神戸市産業振興センター ハーバーホール	崎浜キヌ
第46回	2024年11月2 - 3日	東京	JA 共済ビルカンファレンスホール	成川希
第47回	2025年11月1 - 2日	兵庫	オンライン配信	澁谷るみ子
第48回	2026年10月31 - 11月1日	東京	大崎ブライトコアホール	西谷雅史

TIRAKITA AYURVEDA

アーユルヴェーダの本場、南インドから
インド基準で本物のオイル

本場のアーユルヴェーダをそのままに

ティラキタでは、本場インドで使われているプロ仕様のアーユルヴェーダオイル等を取り扱っております。

主力のAVP (The Arya Vaidya Pharmacy社)の製品は、アーユルヴェーダ經典に忠実な伝統のレシピを基に、GMP認証取得の厳格な品質管理の下で作られております。

ご購入はティラキタまで

ティラキタは、2001年創業のアジア各国の素敵なもの、面白いものを紹介する総合雑貨店です。現在、弊社はアーユルヴェーダ製品や、自然派のハーバル製品の紹介に力を入れています。まだ知られてない、しかし本当に質の高い品の数々。自然の力が宿る本格的な品を皆様へお届けしてまいります。

通常のご購入、商品をご覧になりたい方は、
こちらからアクセスいただけますと幸いです。

オイル 商品一覧



Google等から検索の際は
ティラキタ オイル



不思議で面白いインドとアジアを伝えたい

アーユルヴェーダ・ハーバル製品のご購入、お問い合わせはこちらまで

TIRAKITA CO., LTD. <https://www.tirakita.com/> nandemo_okotae@tirakita.com

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色339



店舗様、サロン様への卸売

店舗様、サロン様への卸売りも行っております。ハーバル石鹸や歯磨き粉、タンスクレーパーや、シロダーラ、銅製品など、関連品もたくさんご用意がございます。



卸会員 申込みページ



Google等から検索の際は
ティラキタ 卸



ダンワンタラム タイラム [Dhanwantharam Thailam 200ml]

4026円



オイルの王様として知られるボディマッサージオイルです。ごま油*に約28種類の植物のパワーを溶かし込んだアーユルヴェーダの古典的な調合です。

オイルの選定に迷ったらまずはこちらをお試しください。

マハーナーヤーナ タイラム [MAHANARAYANA TAILAM 200ML]

4389円



膝や肘、指などの節々まわり、背中や腰におすすめのオイルです。ヴァータ、ピッタ用のボディマッサージ向けオイルです。

こちらはヒンドゥー教の重要な神であるビシュヌ神の化身、ナラヤナ神の名を戴いた重要なオイルです。

クシーラバラ タイラム [Kshirabala tailam 200ML]

3828円



オイルを頭に滴下するシロダーラに使われるのがこのオイルです。ヴァータに向けたオイルで、肌、頭皮、毛髪のすこやかさを保ちます。なめらかなテクスチャーと穏やかな香りが特長で、ボディケアやマッサージオイルとしての日常使いに適しています。

ブランミー タイラム [Brahmi tailam 200ML]

3058円



髪や頭皮のケアに使用されることが多いヘッドマッサージ向けオイルです。

アーユルヴェーダにおいて古くから用いられてきたバコパ・モニエラ*などのハーブをベースに、厳選された植物成分をブレンドしています。

トリバラディ タイラム [Triphaladi tailam 200ML]

3190円



髪や頭皮のケアオイルです。アーユルヴェーダに伝わる「トリファラ」を主成分としたオイルで、ゴマ油*とともに伝統的な製法で調製されています。オイルマッサージによる頭皮環境のサポートや、リラクゼーションのお供としてお使いいただけます。



エラディ オイル [Eladi Oil 200ml]

4026円



はりつやを与えたいお肌をマッサージする時に最適なオイルです。

ココナッツ*とカルダモン*など、23種類の成分を配合したアーユルヴェーダオイルです。ピッタ、カパの方に向いたオイルです。お顔に、お体の気になる部位にお使いください。

カルプーラディ タイラム [Karpooradi Thailam 200ml]

3278円



すべてのドーシャに使えるオイルです。

頭部や体に塗布すると、スーッとする感覚があり、リフレッシュしたいときや疲労感を感じる際のマッサージオイルとしてセレクトされることが多いです。

コッタム チュッカディ タイラム [Kottamchukkadi Thailam 200ml]

2946円



肩や腰まわりをマッサージするときにおすすめのオイルです。

モリンガ*、ジンジャー*、タマリンド*をはじめとしたハーブをごま油*溶かし込んだ古典的アーユルヴェーダの調合に基づいたオイルです。

ムリヴェンナ [Murivenna 200ml]

3278円



スポーツ後の筋肉マッサージに最適なオイルです。ボディケアにもぴったり。

ムリヴェンナ(Murivenna)は、ケララ州の古典的アーユルヴェーダの調合に基づき、ココナッツオイル*ベースで作られています。

ピンダ タイラム [Pinda Thailam 200ml]

3278円



ピンダタイラムは赤味を帯びた独特な色合いと、穏やかな香りが特徴の古典的アーユルヴェーダの調合に基づいたオイルです。

ピッタとヴァータの方に向いたオイルで、肌荒れを防ぎ、皮膚を保護します。



TIRAKITA AYURVEDA

ヴァータ ボディ オイル [VATA Body Oil - Bala Thailam 100ml]

2178円



Bala (Bala - Sida cordifolia) *という「力」を意味するハーブを中心に、ごま油*などで調製される伝統的なアーユルヴェーダオイルです。ヴァータに向けたオイルとして、疲れたときや産後のアビヤンガ(オイルマッサージ)などに用いられてきました。

ピッタ ボディ オイル [PITTA Body Oil - Chandanadi Thailam 100ml]

2178円



ピッタに向けたオイル、チャンドナディタイラムは、白檀*が入った穏やかな香り的高級オイルです。穏やかな香り和使用感から、リラクゼーションを目的としたマッサージやスキンケアの時間に適しており、心と体を整えるセルフケアアイテムとして取り入れられています。

カパ ボディ オイル [Kapha Body Oil - Tripharadi thailam 100ml]

2178円



トリファラディ・タイラムはカパ体質の方が頭から体まで全身使えるオイルです。古来から使用されてきたハーブ、トリファラをベースにしたオイルです。アムラ*、ハリタキ*、ビビタキ*という3種類の果実を乾燥させたものです。

この他にも数多くの伝統オイルを取り扱いしております。
ぜひ、HPをご覧ください



TIRAKITA
商品一覧はこちら



Google等から検索の際は

ティラキタ オイル

※お肌を健やかにするために配合しています ★肌を柔らかく、皮膚の乾燥を防ぎ、皮膚の水分、油分を補い保つ基本油として配合しています



NEW!

アーユルヴェーダ手帳2027の内容

MONTHLY COLUMN & WORK >>

- 1月 寒い冬の「温め習慣」
- 2月 冬を身軽にする「手放し習慣」
- 3月 芽吹きの中始める「小さな行動」
- 4月 揺れ動く心を守る「処方箋」
- 5月 生命力に変える「極上の眠り」
- 6月 梅雨こそ観察「おなかの火加減」
- 7月 涼やかになる「ゆるめる手放しメモ」
- 8月 真夏の贅沢「養生リスト」
- 9月 生命エネルギーを増やす「潤い習慣」
- 10月 五感を潤す「優しいご褒美」
- 11月 乾燥と冷えから守る「3つの味」
- 12月 喜びや幸せを書き溜める「オーガスの壺」

四季を通して使うから
アーユルヴェーダが日常に

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
天気	晴	晴	晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心	心
7時までに起きる	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
起床時間	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
22:30までに寝る	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
就寝時間	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
睡眠の質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お通じ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ドーシャについて ひとこと	毎月の経過を振り返ると 体調管理がしやすくなります													
ドーシャ	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V
朝・昼・夜	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K	K
朝・昼・夜	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17時以降食べない	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
朝・昼・夜	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

特典>> 特別動画、オリジナルグッズ付

アーユルヴェーダ手帳
2027 ayurveda diary

＼ 好評発売中！ ／

詳しくはこちら >>

<https://ayurveda-diary.com>



ダンヴァンタリ アーユルヴェーダ スクール®

校長 及川 史歩
インド政府認定アーユルヴェーダ医師 (B.A.M.S)

アーユルヴェーダを
基礎から体系的に
じっくり
学びたい人へ

STUDY AYURVEDA

初級コース
5期

定員：12名
263単位 [12ヵ月]

2027年春
開講



一人ひとりに寄り添う生活処方ができる専門家へ

一年間の学びを通して、アーユルヴェーダの考え方を
日々の生活に応用し、一人ひとりの暮らしに合わせた生活処方を
提案できるディナチャリヤ コンシェルジュを育成します。

特長
01
理論

古典を読み解きながら
基礎理論を
体系的に学ぶ



特長
02
実習

ディナチャリヤ、食、
セルフケアなど知識を
暮らしに落とし込む



特長
03
フィールドワーク

自然、季節、生きものを
観察し、教室で学んだ
理論を実地で確かめる



特長
04
学びの環境

講義室、実習室を備えた
東京 三鷹 の
専用校舎で学ぶ



古典からの出典・論拠を
多数掲載した
オリジナルテキストを使用



初級修了後も、理論本科、実践専科へ進級して
継続して学びを深めることができるカリキュラムをご用意しています。

当校基幹教育の詳細は
スクール公式HPで！

check
HERE



ダンヴァンタリ
アーユルヴェーダ
スクール mitaka, TOKYO

181-0013
東京都三鷹市下連雀 2-28-6
info@dhanvantari.school

☎ 0422-26-9221
@ dhanvantari.school
www.dhanvantari.school



スクール
公式Instagram



アーユルヴェーダ・クティ
公式HP



あたりまえ食堂
公式Instagram

日本先制臨床医学会 第9回 | JSPCM TOKYO | 2026 | 学術大会

桐村 里紗

Lisa Kirimura

一般社団法人プラネタリー
ヘルスイニシアティブ代表理事
天籟株式会社 代表取締役 医師

今野 裕之

Hiroyuki Konno

医療法人社団TLC医療会
ブレインケアクリニック
名誉院長

野村 紘史

Hiroshi Nomura

N2クリニック
ホテル椿山荘東京
院長

本田 俊仁

Toshihito Honda

医療法人慈慶会 ほんだ歯科
理事長

朝戸 統覚

Noriaki Asato

Legal Agent 株式会社
Legal Agent 法律事務所
CEO・代表弁護士

奥 真也

Shinya Oku

医療未来学者・医師

岡崎 直観

Naoaki Okazaki

国立大学法人 東京科学大学
情報理工学院・情報工学系
教授・博士

町 淳二

Junji Machi

ハワイ大学医学部外科・
国際医療医学オフィス
M.D., Ph.D., F.A.C.S.

音琴 淳一

Junichi Otagoto

松本歯科大学病院総合診療科
大学院健康増進口腔科学講座
教授

大会長 小林 正学

Masanori Kobayashi

岡崎ゆうあいクリニック
院長



名誉
大会長

福澤 嘉孝

学校法人 愛知医科大学
理事・名誉教授

西谷 雅史

響きの杜クリニック
理事長・院長

萬 憲彰

医療法人医新会
よろずクリニック 理事長・院長

新垣 実

(医) 新美会新垣形成外科 理事長
日本臨床カンナビノイド学会 理事

田中 善

医療法人仁善会 理事長
田中クリニック 院長

船戸 崇史

医療法人社団 崇仁会 船戸クリニック 院長
がん予防滞在型リトリート リボーン洞戸 代表

川上 智史

群馬医療福祉大学 准教授
健康増進クリニック 院長補佐

The 9th Annual Meeting of Japan Society of Preemptive and Clinical Medicine



一般社団法人 日本先制臨床医学会

Japan Society of Preemptive and Clinical Medicine

お問い合わせ: 03-6240-0179 (平日 10:00 ~ 17:00)

<https://jspcm.org>



きたにし耳鼻咽喉科

TEL 06-6902-4133

木曜・土曜午後
日曜・祝日休診

当院では オンライン保険診療や自由診療(来院・オンライン)も行っています。

自身白医

～自らの治る力を高めるお手伝いをします～

当院では、「患者様のお話をしっかりと聞く」、「わかりやすい説明をする」、「幅広い治療方法を提案する」、をコンセプトに、耳鼻いんこう科一般の診療のほか、様々な療法を取り入れ、治らない病気に対する対応、根本的な治療を目指しています。

- 耳鼻咽喉科一般(アレルギー性鼻炎・花粉症、レーザー治療・舌下免疫療法、めまい・メニエール病、難聴・突発性難聴・耳鳴、補聴器外来、慢性上咽頭炎、副鼻腔炎、睡眠時無呼吸症候群など)
- アーユルヴェーダ相談
- バイオレゾナンス
- ホメオパシー、バッチフラワー
- 栄養・サプリメント相談、指導
- 交流磁気、還元電子
水素吸入(経鼻、経耳)
- プラセンタ、漢方、耳鍼

なんでもお尋ねください

- 気になること
- 心配なこと
- わからないこと



著書:
「慢性副鼻腔炎を自分で治す」
(マキノ出版)

〒570-0004 大阪府守口市淀江町 3-7 メディトピア守口 2F
きたにし耳鼻咽喉科 院長: 医学博士 北西 剛



<https://kitanishi-ent.jp>

きたにし耳鼻科

検索



言葉が組織をかえていく



株式会社トゥーリア

www.touria.co.jp

暮らしの中に、 アーユルヴェーダを。

地域に根ざして、20 年以上
川口市で、地域の皆さまとともに歩んできた美容室です。



作業療法士×アーユルヴェーダ×ヨガ

美容室は、地域の人が日常的に訪れる場所。
私たちはその場所から、アーユルヴェーダを暮らしへ届けています。



Cut & Ayurveda bit

埼玉県川口市三ツ和 2-8-2



【サロン・クリニック様向け】
業務用卸・小ロット仕入れ対応



本場アーユルヴェーダ薬草オイル

個人向け公式オンラインストアも展開中



古典医書に基づく製法
丁寧に作られた「ほんもの品質」



20種類以上のラインナップ
施術や体質に合わせて選べます



安心の輸入体制と導入支援
法令を遵守し、小ロットにも対応

第2期 | 2027 年 4 月開講予定

医療従事者向けアーユルヴェーダ集中講座

日本・インドの医師による、専門的かつ実践的な講座

全 71 時間 | 講義とケーススタディ | 通訳付き | 希望者はインド研修

基礎から専門領域までの学び | 臨床に活かしたい方募集

開催形式・受講対象・受講料・申込期限の詳細は、QR コードから

公式オンラインストア・卸販売・講座の詳細はこちら>>>

アーカーシャ | Email : info@ayurakasah.com
tel : 050-6883-5408



Ayurveda Society in Japan
The 48th General Conference in TOKYO

